

年月と経く彼家替名経とゆづの時。是が家の男の子とて
 嫁むらんれど家系なく二男二男が家いれよなきにがれ
 聲かへたりふ。二家ともみむこの名代ありて法成とゆづ。あ
 り嫁かへるバ身許二ツはまけなく別家下この女は夫婦
 納得の別とせて家財半分は物あり聲引出物との物来く
 むこはあちく眼の影大りふるけてを家留さうかり。今法地下れ
 書き入聲。その眼は懐くそとさうあくも女のおよのぎれどそ
 まく是出し子の中ま生甲斐とかなと男は猶とさとり遣
 是に種落とのひかへ下人ふとらり事おかせにそれいよの
 滅亡とらるむむとめおめとゆづは聲と大切お住りらるの
 らしと祝かとを乃た由は合なり

昔より柳生流の兵法

